

若狭小浜のシロウオ



Supported by:独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金

調査結果と考察

西津浜(図1)で、桁網(口径1.5m×0.4m、袖網6.0m、目合1mm)を用いて、海岸線に沿って設定した2ヶ所を、それぞれ50m曳網しました。曳網は、それぞれの地点で2回ずつ実施した。本調査では、いずれもシロウオを採捕できませんでした。

既往調査結果によると、今回実施した西津浜の西側と東側で、シロウオが10月に採捕されたが、今回と同様に11月には採捕されませんでした(表1)。11月には、すでに沖合に移動した可能性があり、調査時期がやや遅かったために、採捕されなかったことが考えられます。来年度は、シロウオの個体数の減少が原因か、あるいは調査時期の不整合によるものかを再検討する必要があります。

一方、西津浜で採捕された魚類は、ヒメハゼ71個体、ヒモハゼ5個体、マハゼ1個体、オニオコゼ1個体でした(図2)。既往調査結果でも、9月に西津浜に加入した0歳魚を中心としたヒメハゼが特に優占しており、次いでヒモハゼが多い点は共通しています。シロウオ以外の魚種の個体数動態と比較することにより、シロウオへの影響を検証できると考えられます。

今後の見通し

2026年3月には河川で遡上調査を行うことから、遡上数が多い河川と少ない河川が明らかになると推定されます。遡上数が多い河川に近い海域では、シロウオの確認個体数が多い可能性があります。

今後、海域の調査地点を増やし、河川と海域の確認個体数

のデータを比較することにより、シロウオ稚魚の海域での生息および生育場所を特定したいと考えています。

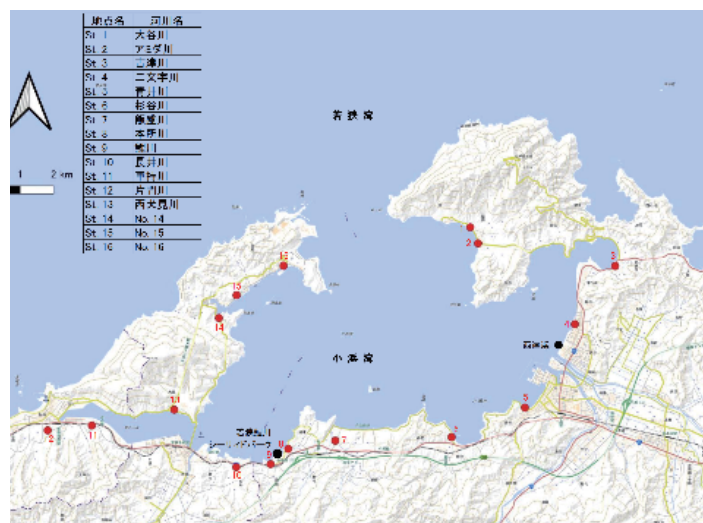


図1 調査地点の位置 ●河川地点 (Stns. 1-16) ●海域地点

調査の概要

シロウオ(Leucopsarion petersii)は、踊り食いなどの生食で知られるスズキ目ハゼ科の魚です。太平洋側・日本海側の各地で行われるシロウオ漁は、川岸に組んだ「やぐら」から四手網や袋網を使って捕獲する伝統的な方法で、地域の文化として受け継がれています。若狭地方でシロウオは「イサザ」と呼ばれ、福井県小浜湾では、毎年3月になると産卵のために河川を遡上し、その姿は春の訪れを告げる風物詩として親しまれてきました。

しかし近年、河川改修などによって産卵場である砂礫底が失われ、遡上する数は大幅に減少しました。現在では環境省の絶滅危惧II類に指定されています。さらに漁業者の高齢化も進み、シロウオ漁はほとんど見られなくなりました。その結果、近くの川にシロウオが生息することを知らない人も増え、十分な保全対策がとられないまま、この魚は姿を消してしまうかもしれません。

【調査地】 福井県小浜市

2025年11月 1チーム 5名

表1 2004年 西津浜(S1AとS1B)で桁網により採集された魚類の月別個体数の変動。数字は採集した個体数を示す

種名	学名	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
カタチイワシ	<i>Engraulis japonicus</i>	1				2		3
エノ科sp.1	(不明)						2	2
ヨウジウオ	<i>Syngnathus schlegelii</i>	1						1
タノオトシゴ	<i>Hippocampus coronatus</i>	2	3	1	1	1		8
ハオコゼ	<i>Hypodites rubripinnis</i>			1	7			8
コチ科sp.1	(不明)					1		1
コチ科sp.2	(不明)					1		1
シロギス	<i>Sillago japonica</i>	22	5	1149	426	56		1658
ヒイラギ	<i>Leiognathus nuchalis</i>	20			12	13	3	48
マダイ	<i>Pagrus major</i>	1						1
ハタチヌメリ	<i>Callionymus flagris</i>		2					2
ネズミゴチ	<i>Repomucenus</i>	1	5	14	10	4	6	40
シロウオ	<i>Leucopsarion petersii</i>				4	141		145
ヒモハゼ	<i>Eutimenchthys gilii</i>		12	139	80	23	14	268
ヘビハゼ	<i>Chaenogobius umtensis</i>					1	1	2
ヒメハゼ	<i>Favonigobius</i>	137	20	283	652	269	194	1555
シモフシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>	2	3	36	6		1	48
ハゼ科sp.1	(不明)				1213	461	4	1678
アイゴ	<i>Signatus fuscescens</i>			1				1
ヒラメ	<i>Paralichthys olivaceus</i>	1		1	1			3
イシガレイ	<i>Kareius bicoloratus</i>	1			4			5
ササウシシタ	<i>Pseudoesopha japonica</i>		1	14	6	2	1	24
クロウソウシタ	<i>Omglossus jayneri</i>		3	3		4	2	12
アミハギ	<i>Rudisius erodes</i>	1	4					5
カクワガ	<i>Takifugu niphobles</i>				1	1		2
その他	(不明)						1	1
合計		189	55	1651	2419	980	226	5520

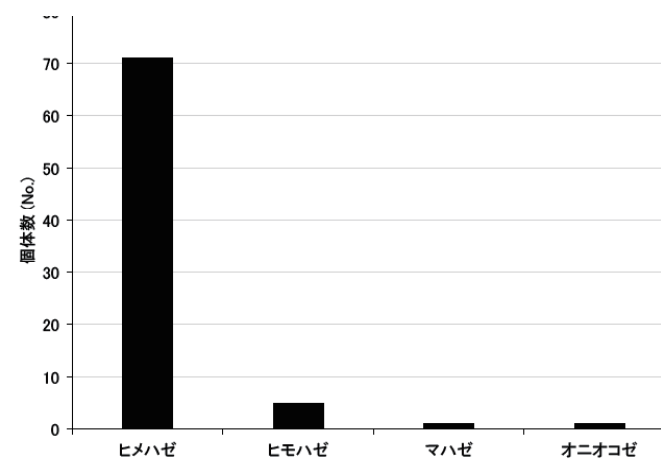


図2 西津浜で採捕された魚類 (2025/11/15)

主任研究者

富永 修

福井県立大学海洋生物資源学部 先端増養殖科学科 特命教授

松井 明

福井県立若狭東高等学校 教諭、小浜市いさざ採捕組合 組合長



参加者の声

研究者のシロウオ保全に対する熱意や他の参加者の調査や環境への思いを聞いて、自分もこれから何が出来るか考える良い刺激になりました。

シロウオという小さな魚を通じて環境変化だけでなく文化の継承や地域の問題、教育のことまで思いをはせることができました。ありがとうございました

自分の行動がこの先の自然のものを守ることに繋がっていくと思えました。

環境が刻々と変化している中で、生物多様性を保全することの困難さとその大切さについて改めて考える機会となりました。

両先生の熱量の凄さに感激です。ありがとうございました。